



一生懸命だよ



国際読書年 国も県も民意を正確に捕え、その実現の為の議会を!

原点に戻ろう ～ 子供達の心を豊かに県立図書館にコーラル文庫 ～

■「最低でも県外移設」と言われた鳩山首相の沖繩基地問題。この際根本的な日本の安全保障についても考える時と思いましたが、外務大臣、防衛大臣等の訪米や米との話し合いを見たと必ずしも国民の多くが支持し、転換させた新政権鳩山氏の思いとは一致せず。地滑り地帯で危険な浅川ダムも政権が変わり「できるだけダムによらない治水対策を」と前原国交大臣が知事によびかけているにもかかわらず県議会民主党代表(倉田氏)が民主党参議院議員と共に「浅川ダムは県民の願い」と前原大臣に陳情に上がり、長野市選出県議会社民党代表も辻本国交副大臣に「長い議論の末の県民の結論を国の方針だからと一律に言うのはおかしい」と訴える。新政権が民意を反映しようとしても現実には長期政権によるオール与党的な地方議会のねじれが、国民の望む方向をぶれさせてしまっている。

■現場に足を運べば運ぶほど現場内と異なった山口村越県合併や学校土曜日休みや浅川ダム建設そして高校再編や犀峽高校分校化! 農林業政策に到っては国の施策、いや方針自体が間違っていたのではないだろうか? やがてその方針は今後企業をも苦しめることになる。真の国民・県民の幸せの実現を考え、議会は勇気をもって古い体質を捨て、本気で議論する場にならなければならないと思う。

2月定例県議会のご報告

建設 危険で無駄な浅川ダム建設について

- ①「地滑り地帯にしかも浅川の災害に直接は役立たない穴の開いたダムを」との住民の不安、長野市長選挙時の世論調査での62.3%に及ぶ浅川ダムの見直しをどう受け止めるのか?
- ②議論は尽くした。
- ③「コンクリートから人へ」を訴えた政党の大勝をどう考えるのか? 昨年12月の大臣よりの「出来るだけダムによらない治水対策へのお願い」は?
- ④浅川ダムは長野県民の議論の結果なので国が一律にいうことではない。
- ⑤国土交通省の「有識者会議」における個別ダムの検証を拒むのか?
- ⑥県民の代表である県議会が予算を決めれば決定。国の検証を待つ必要はなし。

西松建設が知事選時に進化した供託した資金は選挙期間中も返さずとも4回の仮借りで浅川ダムがダムありきで穴を開きダム決定へと進んだのか?

教育 学校週5日制について

- ①子供も親も学校現場も望まなかった5日制が完全実施されて10年。月1回でも土曜日登校はどうか?
- ②学力低下となりゆとり教育そのものに疑問がでてきた。



観光 観光関連事業の執行について

- ①多額を予算化したザガット英語版の進捗状況とJCAスバック長野大会の県経済波及効果は?
- ②外国人旅行者誘致推進に本年度ロシアを追加した成果は?

教員免許更新性の存続を求める意見書に反対討論

■「せっかく取得した資格(免許)をなぜ教員のみ10年毎に更新するのか! その研修の内容やその間の学校へ生徒に対する大きな負担は!」と批判されし新政府が見直そうとしている矢先に地方から「研修を受けた教員の8割は良かったと言っている。是非継続を!」と現場の声と反対の声が国に伝えらようとする意見書に驚き、あきれ、反対討論をした。

国に対する各県からの「意見書」はこのように各議会と与野党が協議決定し、国民の希望を反映して国に上げます。しかし意見書の内容(元教員)は国(与野)からきたもので、これでは国と意見を交わらせる「タウンミーティング」と同じです。

どうこれが地方の声?

地方自治法第99条の規定により、国に出す地方からの「意見書の仕組み

活動報告



水と緑を守る活動を始めて22年「千曲川の河川環境シンポ」にて



スタート時から関わった遺言 成年後見人制度の周知活動。NPO法人となり20回、ますますの普及・啓発!



さよなら望月警察署。望月・立科北御牧・浅科消防団長とともに



PTA母親文庫からのふれあい読書会 小学校高学年読み聞かせする山梨会長(県議は隣の教室で)



市町村一括おのて今まで支えてきた団体にしっかり補助してね。

知事の政治姿勢について

- ①県職員が県民の方を向かなくなったと聞か「公務員は公僕」という考え方をどう考えるか?
- ②【人事について】
 - ・副知事2人制の成果は?
 - ・議員時代の秘書3人を(参事、公務の秘書、政務の秘書として東京に一人、長野に一人)県職員として採用した成果は?
 - ・国の省庁から職員を受け入れる目的と成果は?
 - ・県職員の再就職促進の復活についての考え方は?
 - ・教育委員会の自主性と「委員長含み」の人事案提出は?
 - ・前人事委員会の辞任について任命権者としての考え方は?
- ③【組織について】
 - ・大坂事務所、名古屋事務所の復活の成果は? 観光部設置の成果は?
 - ・外郭団体の見直しについて廃止と決定されていた公社等の復活の理由は?
 - ・県立病院を独立法人化、校用技師、学校支司書等学校現場の職員等の臨時的又民間委託、県有施設(福祉・教育も含め)の指定管理制度の導入に対する考え方は?

すべて反対した県議者が「人事は知事の思いのままに前進高橋もご自由だ」の言わばは……



他県に先んじて国の方針も即事野党に誘入するのはいかぬのか!

不可解な監査委員人事案件に反対討論

■今井正子議員の反対討論(要旨)・・・「今回の監査委員人事は知事の「肩たたき」人事と言われても仕方がない。知事側近である現職の総務部長が中途退職し監査委員に就任することは「監査委員会は知事から独立した立場」を考えれば今回の人事は県民にも疑問を抱かせる。監査委員の最大の任務は「決算の監査」であり、県政のチェック機能を強めるためにもこの人事案件には反対である。

新年度予算で思いが実現

- 特別支援学校の教員80人増員
- 不登校支援に3000万円
- 県産材住宅への助成
 - 新築●●万円(昨年30万円)
 - リフォーム40万円(昨年15万円)ただし省エネ基準もあり
- 医師確保対策に5億1000万円
 - 医師研究資金貸与200~300万円
 - 医学生学資金貸与 月額20万円25名(既貸与者50名)
 - 女性医師復職支援研修
 - 産科医・緊急医に対する手当ての支援
 - 助産師活用促進



トライアル信州 県政報告

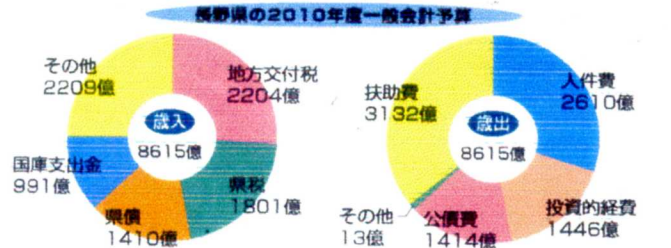
2010年(H22) 第15号

- 発行・編集／長野県議会トライアル信州
- 住所／長野市南長野字幅下692-2 議会棟2F
TEL.FAX 026-235-7515
E-mail:info@trial-shinshu.jp
ホームページ:http://www.trial-shinshu.jp
- 発行責任者／島田 基正



深まる財政危機と借金体質

—今年度の県財政は8615億円余—



2月県議会で我が会派は村井県政の最終年度を検証すべく島田基正、永井一雄、今井正子、小林東一郎の各議員が質問に立った。特に深まる県財政の危機を指摘し「借金の山」を後世に残してはならないことを強く訴えた。

「臨時財政対策債」に依存は疑問符

■今年度の県予算の特徴は大幅な「臨時財政対策債」の発行である。その額は834億円で前年比で47.9%の増である。・・・村井知事は「臨財債」は国が地方交付税で借金返済を手当てするので直接には県の負担にはならないとしているが、現実はその甘くはない。事実、過去の「臨財債」の発行3617億円の返済のために県は毎年300億円を支出している。

一日3億8900万円の借金返済生活

■県の借金総額は今年度の県債発行額1410億円を含め1兆5697億円、県の単年度予算額の2倍に迫り、県民一人あたり71万円になる。返済する額も一年間で1414億円、一日あたり3億8900万円になる計算。・・・また県の貯金にあたる基金も10年度245億円あるが、取り崩しによって4年後には88億円になってしまう。このような財政状況は危機管理の面から見ても危険と言わざるを得ない。

浅川ダム建設費に25億円は不要

県は長野市内に建設する「浅川ダム」の本体工事に今年度予算で25億円を計上した。このダム建設計画は田中県政時代に「投資効果は不明」として凍結された事業である。理由は明白である・・・「浅川下流域の水害は主に千曲川の内水面氾濫によるもの」「ダム建設周辺は県内有数の地すべり地帯である」「投資効果が不明」・・・など。我が会派はここ数年、「浅川穴あきダム」と同型の島根県益田川ダムの調査や治水専門学者との意見交換など積極的に活動してきた。・・・その結果「安全面」「投資効果」などの観点から本体工事契約案に反対をした。財政厳しい中、また経済効果も薄い浅川ダム建設に反対することは、同時に県民の付託に応え県税の使い道を賢く正しい選択だと確信する。合わせて今後も大型公共事業の計画についてはその「費用対効果」など検証していく決意である。



県議に
は当然
の行爲
である。

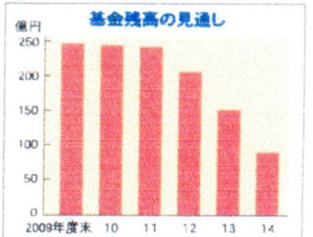
とって
は当然
の行爲
である。

県議に
は当然
の行爲
である。

シリーズ② 村井県政を検証する

事業の「選択と集中」は放棄された?

■村井知事は県税投入のあり方を「選択と集中」と定義してきた。しかし、ここ数年の県の当初予算を見るかぎり各分野における新規事業の拡大が目につく。■知事は「景気対策と雇用」が当面の課題であり、これらを実行するために必要な措置としているが、しかし実情は思うような成果は上げていない。■景気のパロメーターである法人税収入は年々減っており、雇用状況も全国ワースト3と思わしくない。■つまり新規事業拡大の成果は少なく、一方で借金は2014年度1兆7000億円に膨らみ、約250億円の基金も同年には100億円を割り込むと中期財政試算はみる。



瓦礫の山から借金の山へ

■就任早々の村井知事は「瓦礫の山を片付ける」と前田中県政を批判したが、このまま無原則的な事業拡大状態が続けば「借金の山」が残り、未来を担う若者たちに膨大な負担をかける。まさに「借金の山」が残り、県財政も家計もカチカチ山のようになり火が付く危険がある。

不可解な監査委員人事案件に反対する

今2月議会で不可解と思える人事案件が知事から提案された。それは任期一年を残している高見澤賢司代表監査委員を辞職させ、新たに現職の県総務部長を中途退職させ登用すると言うものであった。そこで我が会派の永井一雄・今井正子両議員が質疑および反対討論に立った。

■永井一雄議員の質疑(要旨)・・・「監査委員は任期4年が保証されている。監査する立場から言えば知事部局と対立する関係にあり得ることから恣意的に罷免を防止するため地方自治法第197条は(田心身の故障)職務上の義務違反などが無い限り、知事が辞任を迫ることはできない。これは巨大な権限を持つ知事が好き勝手な人事をさせない法である。今回の人事は知事の見識が問われる。」

■今井正子議員の反対討論(要旨)・・・「今回の監査委員人事は知事の『肩たたき』人事と言われても仕方がない。知事側近である現職の総務部長が中途退職し監査委員に就任することは『監査委員会は知事から独立した立場』を考えれば今回の人事は県民にも疑問を抱かせる。監査委員の最大の任務は『決算の監査』であり、県政のチェック機能を強めるためにもこの人事案件には反対である。」

今年度の議会任務

■島田 基正	会派代表	農政林務委員会
■今井 正子	会派副代表	文教企業委員会・公共交通特別委員会 決算特別委員会
■永井 一雄	会派幹事長	環境商工観光委員会・議会運営委員会
■小林東一郎	会派副幹事長 会派政務調査会長	危機管理建設委員会

▼2月県議会の大きな争点の一つに浅川ダム建設問題があった。しかし、この問題を取りまともに正面から取り上げたのは我が会派など含め数名の議員であった。▼我が国のダム建設が本格化するのは1900年(M33)に兵庫県布引ダム(ぬのびき)であった。イギリスのパルトン技術師の設計によるものである。▼ダムが考案されたのはオランダである。▼オランダは九州と同じ広さの国土。川が国土に占める割合(水面比率)は25%。▼オランダの数学者シモンステイブンは「水の重量に関する研究」により国土を干拓と堤防によって守ることを提唱した。▼首都アムステルダム、第二の都市ロッテルダムはその由来である。▼しかし彼らはダムのみならず比重量を置かない。▼地域や地勢に即した水害対策を講じている。水をくみ上げる風車はその代表例であろう。▼山紫水明な信州を巨大なコンクリートの塊に変えることは県民が納得しない。▼まして「効果不明」のダム建設に、Oと突きつけるのは税を審議するに当たっての行爲である。

